

AI カメラ設置に関する住民説明会 Q&A 集

◆検知・対応

- Q. 危険行動の検知を行うとのことだが、子どもがふざけて掴みかかったり、ただしゃがんだりしている、などはどう判断されるのか？**
- A. 誤検知を極力防止するため、AI にて検知されたタイミングから 15 秒後に再度同じ事象を AI が検知した場合、警備員に通知します。
- Q. ナイフなどの凶器は小さいものでも判断できるのか？**
- A. カメラから約 5 m の画角内であれば、AI が凶器を物体検証して検知できるところまでは確かめております。来年 4 月にはさらに精度を上げて運用していこうと考えています。
- Q. アクアテラスの危険時の立ち入り検知を行うということだが、立ち入りの検知のみで、ローラースポーツなどの危険な遊びを小学生が行っているがそういった検知はされないのか？**
- A. 現状は検知されません。ただ、AI の機能を変更することで実現は可能なため、今後実運用に向けて検討します。
- Q. 例えば犯罪者が来たなどの顔の検知もされるのか？**
- A. 検知されません。検知するためには通行人の顔を AI で認識するなどの仕組みが必要ですが、今回はプライバシー保護を優先しているためそういった仕組みの導入はいたしません。必要に応じて今後検討します。
- Q. 犯罪などが起きた際に警察から画像の提供を求められても渡せないのか？**
- A. 警察からは照会するために映像が欲しいという要望がありますが、現状はプライバシー保護を重視しており映像保存をしないため、渡すことはできません。
- Q. 顔認証システムもいずれ使えるようになるのか？**
- A. AI の技術的には可能です。
- Q. 警備員が現場へ駆けつけるとのことだが、危険行為の検知から現場まで何分くらいかかるのか？**
- A. 即時対応ができるようにと警備業法として定められているため、危険行為を感知したらすぐにメールが入るように計画しています。警備員の待機所を柏の葉エリア付近に設置し即時対応ができるように計画中です。メールを受け取ってから 1 分～1 分半程度で駆け付けられるような形を目指します。
- Q. アクアテラスが増水した際にチェーンがかかるが、どのようにコントロールしているのか？**
- A. 今は直に見て判断し、入口を封鎖しています。今後は水位が上昇したという情報と人の立ち入りを検知して警備員に知らせる仕組みも計画しています。

◆取組み

Q. 取組みの実施状況に対してのレポートはされるのか？

A. 現在、試験運用データの公開は考えておりません。

Q. 住民増加に伴い、カメラの設置を広げることはあるか？

A. カメラの設置範囲の拡張については、カメラ設置後の運用を通じて検討します。

Q. 安心安全を目指すというのに対し、KPI、目標などはあるか？

A. スマートシティ事業の一環として、モデルケースを作っていきたいと考えています。

安心安全に対して、現状は犯罪に対する抑止の効果が大きいと考えていますが、
今後は緊急時の即時対応スキームの構築や、属性データ連携を通じた密を避ける対策など、
より安心安全な街づくりを目標として、遂行していきます。

Q. 実証実験として目標もスケジュールに落とし込むべきなのは？

A. マイルストーンの設定は必要であると考えているため、検討します。

Q. AI カメラを定点カメラとして誰でも WEB 閲覧を行えるような検討はしているか？

A. 検討しておりません。将来的に定点カメラとしての運用が開始された場合においても、
防犯担当者以外の方がカメラ画像を閲覧することは想定しておりません。

Q. 人流解析の結果など、今後の取組みの結果を公開した方が良いのでは？

A. 現状活用方法は検討段階ではありますが、公開につきましても検討します。

◆カメラ関連・データ管理

Q. 保存されるデータとは、映像データではなく、属性などのテキストデータのみ？

A. その通りです。

Q. 流出の問題が気になるが、情報の保存方法、対策は？

A. バックグラウンドでデータ保存をしております。カメラ内にデータを暗号化して保存しますが、日次で別の堅牢なデータ保管場所にデータを転送し、カメラ内のデータは削除する運用を考えております。

Q. 映像データを残さないということだが、一度クラウドにあげた後にデータを削除するのか？

A. 映像は AI 分析されたものからカメラ内で即時破棄されます。

Q. 画像データを残せないのに、どうやって AI を学習させるのか？

A. 今回設置するカメラとは別のカメラを用意し、画角や距離を設置時と同等に調整した上でエキストラをとらえる事で学習をさせます。学習した内容をクラウド上で共有することで AI のアップデートを行います。

**Q. 企業が収集したデータを活用するよう思えるが、
何の情報が集まって、その情報を誰に開示して、どのような恩恵が受けられるのか？**

A. 企業だけ情報を収集して活用することはありません。

スマートシティ実行計画は 30 社ほどのコンソーシアムになっており、UDCK タウンマネジメントの中にも東京大学や千葉大学の先生方もいるため、学問に活用していくことは考えています。

得たデータは今後街づくりに活用できるものだと思っていますが、具体的にどのように使うかは検討段階にあります。

データは UDCKTM が保有し、公・民・学連携の組織としてデータ管理・活用していきます。

もし 1 企業がデータを使うのであれば、目的をしっかりと精査して使用することとしています。